

1. 略歴

- 1977年3月 東京教育大学附属高等学校卒業
1977年4月 東京大学教養学部文科3類入学
1981年3月 東京大学文学部第一類（美学芸術学専修課程）卒業
1981年4月 東京大学大学院人文科学研究科（美学芸術学専門課程）修士課程入学
1984年3月 東京大学大学院人文科学研究科（美学芸術学専門課程）修士課程修了
1984年4月 東京大学大学院人文科学研究科（美学芸術学専門課程）博士課程進学
1988年9月 東京大学大学院人文科学研究科（美学芸術学専門課程）博士課程単位取得退学
（その間 1987年10月～1988年9月 DAAD（ドイツ学術交流会）奨学生としてハンブルク大学に留学）
1992年10月 東京大学大学院人文科学研究科において博士（文学）取得
1988年10月 神戸大学助教授，文学部（哲学科芸術学専攻課程）
（その間 1990年10月～1991年8月 ハンブルク大学で研究）
1993年10月～ 神戸大学大学院文化学（博士課程）兼任
1996年4月 東京大学大学院人文社会系研究科（美学芸術学専門課程）助教授
2007年4月 東京大学大学院人文科学研究科（美学芸術学専門課程）教授
（その間 2008年10月～2009年9月 ドイツ連邦政府の招聘によりドイツにて研究）

2. 主な研究活動

a 専門分野

美学・芸術学の基本概念の研究、「感性の学」としての美学の歴史的再構成、18世紀から19世紀にかけてのドイツ語圏を中心とする美学理論の研究、20世紀前半におけるドイツと日本の美学交渉史の研究、および間文化的視点からの美学理論の構築

b 研究課題

第一に、2001年に公開した『芸術の逆説——近代美学の成立』以来の研究の一環として、美学・芸術学の基本概念の研究に従事している。その一端は2009年に公開した『西洋美学史』（東京大学出版会）において示した。この書物は、学説史研究の持ちうる現代的な意味を問う試みでもあり、この研究をその後も継続して行っている。

第二に、「感性の学」としての美学を歴史的に再構成し、現代の美学を刷新する作業に携わっている。これは数年後に『西洋美学史』第二巻として結実するはずのものである。この2年間はとりわけカントとヘルダーに即してこの主題を検討した。

第三に、昨今の「間文化性」への関心の増大に応じつつ、19世紀末から20世紀前半における日本の西洋美学の受容を「間文化性」の問題として扱う可能性を探る作業を継続している。

c 概要と自己評価

上記三つの課題に関して、この2年間はとりわけ第二の課題に多くの時間を割き、18世紀の美学理論における「無意識」的なものをめぐる考察を通して、さらに *sensus communis* に関する研究、あるいはカントの『判断力批判』の再読を通して、論文及び講演において新たな知見を示すことができた。

d 主要業績

(1) 論文

- 小田部胤久、「Auffassung/Zusammenfassung/Zusammensetzung/Darstellung——カント『判断力批判』における「構想力」について——」、『美学芸術学研究』、2014.3
Tanehisa Otabe、「Das Unbewusste im letzten Viertel des 18. Jahrhunderts aus der ästhetischen Sicht」、『JTLA』、2014.3
小田部胤久、「『判断力批判』における「構想力」と「内官」再考——感性論としての美学への一つの寄与——」、『美学』、2014.9
Tanehisa Otabe、「Aesthetik in Japan」、『Laenderbericht Japan. Die Erarbeitung der Zukunft.』、2014.11
Tanehisa Otabe、「On an Aesthetic Consciousness of our Being: Toward a Contextualization of Shusterman's Somaesthetics」、『International Yearbook of Aesthetics』、18、117-123頁、2014.12
小田部胤久、「〈共通感覚〉の問題圏——〈感覚の感覚〉（アリストテレス）から〈美的意識〉（カント）へ」、栗原隆・座小田豊編『生の倫理と世界の論理』東北大学出版会、2015.3

Otobe, Tanehisa, 「Das Problem des „sensus communis “. Die Wahrnehmung des Wahrnehmens (Aristoteles) und das ästhetische Bewusstsein (Kant)」、『JTLA』、39、69-82 頁、2015.3

Tanehisa Otobe, 「The Idea of “Common Sense” Revisited: A Contribution to an “Aesthetic Turn” of Aesthetics」、『Revisions of Modern Aesthetics』、493-503 頁、2015.6

小田部胤久、「モナドロジー的世界観の美学的意味」、『モルフォロギア』、37、36-48 頁、2015.10

(2) 書評

西村清和、『分析美学基本論文集』、『週刊読書人』、4 頁、2016.1

(3) 学会発表

国内、小田部胤久、「感性論としての美学からみたカント『判断力批判』」、美学会東部会、2014.5.31

国内、小田部胤久、「モナドロジー的世界観の美学的意味」、ゲーテ自然科学の集い、2014.11.2

国際、Tanehisa Otobe, 「The Idea of “Common Sense” Revisited: A Contribution to an “Aesthetic Turn” of Aesthetics」、Revisions of Modern Aesthetics, International Scientific Conference、Belgrad、2015.6.28

国際、Tanehisa Otobe, 「Toward A Problem Area of ‘Common Sense’: From Aristotle’s ‘Perception of Perception’ to Kant’s ‘Aesthetic Consciousness’」、14th International Congress for Eighteenth-Century Studies、Rotterdam Erasmus University、2015.7.28

国内、小田部胤久、「晩年のヘルダーの美学的思考の射程——感性論から生の術へ——」、日本ヘルダー協会 秋期研究会、立教大学、2015.10.18

国際、小田部胤久、「『美的生活』論争の射程」、The International Conference of Aesthetic Consciousness of East Asia、The Academy of Korean Studies、Seoul、2015.10.30

国内、小田部胤久、「『ästhetisch に意識する』とは何か」、日本カント協会第40回学会、清泉女子大学、2015.11.14

国内、小田部胤久、「『美的生活』論争の射程」、京都土井道子記念シンポジウム、2015.12.25

(4) マスコミ

「超絶技巧 明治工芸の粋」展、『読売新聞』、2014.6.5

「こどもの城3月閉館」、『東京新聞』、2015.2.23

3. 主な社会活動

(1) 学会

国内、美学会、会長、2014.4～

国際、Culture and Dialogue、編集委員、2014.4～2016.3

国際、Allgemeine Zeitschrift fuer Philosophie、編集委員、2014.4～2016.3

国際、国際美学連盟派遣委員、2014.7～2016.3

国際、国際18世紀学会執行委員、2014.4～2015.7

国際、国際18世紀学会派遣委員、2015.7～2016.3

国際、国際シェリング協会参与、2014.4～2016.3